

第5回徳島県教育振興審議会 会議録

日時 令和6年1月25日(木) 10:00～11:50

場所 徳島県庁10階 特別大会議室

(意見交換)

<赤松委員>

長い間審議を重ねてきて、よりよいものができたと感じています。ただ、第1章から「日本一の教育環境」という表現が削除され、トーンダウンしたのが残念に思うところです。今回、初めて審議会に参加させていただきましたが、会議に参加するに当たって、もう少し周りの人たちからの意見を聞いたり、学びを深めたりするなどして参加すれば良かったというのが私自身の反省点です。この審議会の答申は、国で言えば中央教育審議会と同じような役割を果たすものですので、ここで記載されていることは着実に形になっていくことを教育に関わる全ての人と共有する必要があると思います。

現場でいたときには、教育大綱や振興計画はなかなか縁遠いもので、内容的にも盛りだくさんであり、現場からはかけ離れたものという印象を持っていましたが、子どもたち、社会のためにそれを実現できるように、教育現場の方々が関心を寄せるよう、働きかけることができればいいのではと思っています。

<佐古会長>

答申と学校現場をつなぐという観点で、御自身の感想も含めて述べられました。

<若山委員>

教育現場の教員として、赤松委員の発言を身の引き締まる思いで聞いていました。教育大綱や振興計画については、教員採用試験の時に勉強した記憶があります。しかし、教育現場でいるとそれを開けるというのは正直なかなか難しいのですが、様々な方々の色々な御提言が詰まったものですので、やはり現場の先生方にしっかり伝えないともったいないと思います。その観点からも、ポスターで見える所に掲示するなどすれば、日常の中で思い出して目標に向かって頑張っていけるのではないかと思います。成果指標の一覧についても、具体的に数値目標が書かれているので、これらを日常的に教員が目にするによって、目指すべき方向性が再認識できるのではないかと思います。

私は体育科の教員ですので、体力テストの時には、「推進項目5」で示された数値を意識して取り組んでいます。男女とも全国平均以上ということ掲げているので、それを生徒たちにもしっかり伝えて取り組んでいけるのではないかと感じています。

また、「推進項目8」のいじめの解消率100%に関して、教育現場では、年々生徒や保護者からの相談が増えていると感じていますが、小さなことから相談できる環境が整備されていることは良いことだと思っています。一つ一つ話し合いを持ちながら、いろんな機関と関わり合いながら、100%の解決を目指していきたいと考えています。

<長野委員>

練り上げられた本計画が現場の先生方の指針となって役に立つであろうことを期待しています。大変盛りだくさんの内容なので、現場の先生方は大変だろうと推察いたしますが、おそらくほとんどのことは既に実行されていると思います。本計画のねらいとして、先生方に一つ一つの目的やねらいを改めて確認していただくということもあると思いますので、御活用いただきたいと思っています。

ここからは質問なのですが、「資料3」の「推進項目1」と「推進項目4」では、令和4年度は全国平均を下回っているということなのでしょう。「推進項目4」に関する指標の説明のところには「学力調査における県の平均正答率と全国との差」とあるのですが、差がどうだということまで書き切っていないので、この文章の意味が理解できませんでした。一方で、「推進項目5」では、説明のところから「全国平均を下回っていることから」と明記されています。また、「推進項目8」の校則見直しについて、100%を目指すとありますが、全ての学校で見直すべき項目を全て見直すということなのか、教えていただければと思います。指標を設定することは良いことだと思いますが、せっかく設定されるのであれば、より明確に、具体的に示された方がいいのではないかと考えております。

<事務局>

「推進項目1」の指標につきましては、令和4年度の実績でいいますと、小学校が93.4%、中学校が89.9%となっています。小学校の全国平均は94.5%で中学校が92.5%となっているので両方全国平均を下回っている状況です。「推進項目4」につきましては、教科、年度によってバラバラなのですが、令和4年度の実績でいいますと小学校は国語、算数ともに下回っている、中学校につきましては、国語、数学ともに上回っているという状況ですが、年度によっても違うということでこのような指標を設定しております。

<事務局>

今年度、全ての県立学校におきまして、生徒主体の校則見直しを行いました。今後、その取組を中学校に広げたいと考えております。100%の数値につきましては、小学校を除く全ての公立学校において生徒主体の見直しを行うということでございます。

<佐古会長>

「推進項目8」は、全ての公立学校ということでございますが、それが分かるような表現の追加をお願いします。「推進項目4」について、「学力調査における県の平均正答率と全国との差」で説明が終わってしまうのは分かりにくいので、説明の追加をお願いします。

<森下委員>

この一年、様々な観点からの御意見に触れる中で、私自身も大きな学びの機会になりましたし、まだまだ考えなければならないことがたくさんあることが分かりました。この審

議会に参加させていただいたことに感謝申し上げます。一年と少しの期間の中で、委員の皆様からの多くの意見を吸い上げて、このような形にまとめられましたことは、事務局の皆様のお力の賜であると思っています。先の見通しづらい社会にあって、必要な教育が次々と出てきますが、はじめにもお伝えしたように「不易と流行」の不易の部分を大事にさせていただきたいと思います。人権教育もそうですし、学習面でも読み書きなどが基盤となってくると思います。若山委員からもお話がありましたが、この計画が現場にしっかり浸透していくように、学校のリーダーである管理職、教員、保護者、関係者への周知を早く丁寧に行っていただきたいと思っています。小学校教育研究会の事務局では、毎年、研究主題を検討していますが、その研修主題を決める際、国の振興基本計画は出されましたが、県の計画はまだ出ていないので間に合わないと思事務局の方からお聞きしました。事務局からその研究主題を各教科部会に下ろして取り入れていくことになっていますので、今回は致し方なかったと思うのですが、夏頃にできていれば各教科の研究部会にもしっかり浸透させることができたのではないかと思います。

それと成果指標について、スリム化されている点はよいと思う反面、「推進項目5」で「心」に関する指標がないのが少し気になりました。今の指標(案)は、「体」については書かれていますが、国の振興計画でウェルビーイングについて言及があることも踏まえ、「自分にはよいところがあると感じているという児童の割合」といった指標が入ってほしいと思っていたので、今後の検討課題にさせていただきたいと思っています。

点検評価については、一部の人たちだけで評価するのではなく、現場の教員や保護者の意見も吸い上げる場があればもっとよいものになるのではないかと考えています。人生100年時代を迎え、人工知能がますます発達していく中で、将来を見据えての持続可能な社会の担い手を育てていく教育というのがより重要になってくると思います。また、教師のウェルビーイングの向上については、教師のなり手不足の解消にもつながるのではないかと思いますので、そういうことをもっとみんなで考えていけたらと思います。

<佐古会長>

これまでの御発言で共通していますのが、振興計画の中身は盛りだくさんで整理されているのですが、これを実行するとすると、学校の先生方等によく知っていただくことが必要であるということです。学校への周知の仕方について事務局の方で何かありますでしょうか。

<事務局>

概要版の資料も合わせて作りたいと考えていますので、それも活用しながら校長会や各種研修会等の機会を捉えて周知を図ってまいりたいと考えています。

<佐古会長>

学校の先生方は多忙です。これを読んで教育実践で生かしていくのはなかなか大変ですので、ポイントをまとめた概要版が必要だと思います。また、それを学校で配布するだけでなく、管理職をはじめとする研修会等で活用し御理解いただくことが必要だと思います。もう一点、森下委員から「推進項目5」で「心」に関する指標がないので、ウ

ウェルビーイングに関する項目の設定があった方が良いのではないかという御指摘がありました。この点も事務局で御検討いただければと思います。

<事務局>

今回、指標を設定するに当たっては、できるだけスリム化したいということがございまして、全国的な計画の状況なども踏まえて、各推進項目ごとに一つないし二つぐらいでどうかということで事務局の方で検討したところでございます。先ほどの御提案につきましては、事務局で検討させていただきます。

<阿部副教育長>

教員のウェルビーイングに関しては、働き方改革に係る取組として「推進項目15」の「教員一人あたりの時間外在校等時間」の指標を設定しています。この指標の説明の中でウェルビーイングという言葉を用いて内容の説明を行いたいと思います。

<河口委員>

前回は教育大綱の策定に、今回は振興計画の策定に関わる中で、これらの重要性を非常に感じております。教育大綱と振興計画をどのように活用していくのかというのは、校長のリーダーシップの下で取り組んでいくべきものと思っています。計画の内容全てについて時間を取って理解するのは難しいと思いますので、年度初めなどに校長が自校の学校教育目標と照らし合わせる中で、関連性の深いところに関して、教職員の共通理解を図ることが重要だと思います。また、そうしたことを、地域や保護者の研修会の中でも説明を入れながら目指す学校の在り方を共有することによって保護者の理解が深まるのではないかと思います。内容が盛りだくさんなので、活用するのは無理だと考える管理職はいないと思いますが、概要版と合わせて、教員の目に触れるような可視化できるものがあるのではないのでしょうか。今の管理職に聞いても、あまり活用できていないという人が多いですが、広く活用していくことが大事だと思います。また、大学でも学生にも振興計画を読み込ませています。教育の在り方について、学生にもしっかり伝えながら教員志望の学生を増やせるように取り組んでいます。今回は大綱と一体化されましたので、校長会等でお伝えいただいて、より一層有効に活用していただきたい。

もう一点、学校現場でいると、教育委員会からの調査やアンケートが非常に多いので事務局の中でも連携を図って、簡素化・スリム化していただければ、学校現場の負担軽減につながると思います。

<佐古会長>

校長のマネジメントについての話がありました。学校経営の中に取り込んで、学校として重点的に取り組むことを選択して、先生方と一緒に考えて進めていくことができれば、この振興計画が生きてくると思います。一つの方向性としては、管理職の方々の学校経営の中に振興計画が反映されるような活用を目指すということがあるかと思います。

<松本委員>

学校現場への周知に関してですが、管理職にどう周知していけばいいのかということをお考えながら話を伺っていました。職員会議などで振興計画の推進項目等について触れる人もいると聞いています。昨年末に徳島市で45人の小中の校長を対象に学校長ヒアリングを実施しました。その中で、ウェルビーイングの言葉が出てきた学校が数校ありました。それらの学校は、学校経営が安定していて、落ち着いた教育活動を展開していると担当課から報告を受けていたところでした。今回の振興計画を受けて、徳島市でもウェルビーイングに関する調査をしたいと思っています。また、これから県の振興計画をもとに、市町村の計画ができると思います。23市町村に、県の振興計画と中教審の答申をもとに策定を進めるよう、機会を見つけて働きかけていきたいと考えています。

今後、学校現場に期待することや力を付けていかなければいけないことはたくさんありますが、やはり、子どもたちを教える教員が学び続けなければいけないということを再認識しています。また、ウェルビーイングについては、中教審の答申の中で何度も使われています。徳島市教委としても、これについては、より踏み込んだ取組をやりたいと思っています。

<森永委員>

国府支援学校に勤務しておりますが、年度当初の4月の職員会議において、学校長から学校教育目標は振興計画をもとに作っているという説明がありますし、学校教育目標を具体化したものが目標管理シートの中に位置づけられていますので、一年間、徳島で大事にしていることが、自分の目標になり、子どもたちの教育や支援に行き届くものになっていると思っています。

また、先ほどから働き方改革や教員のウェルビーイングの話題が出ていますが、パブリックコメントの9を見ていますと、やはり私たち教員には学力向上や安全・安心な学級経営など、質の高い教育の提供ということが欠かせないものであることを改めて実感しています。時間外在校等時間の縮減を目指すと同時に、教員の働きがいや維持できるようにコロナ禍で精選されてきた行事数を維持しながら、会議のスリム化や校務の見直し、教材の共有等を進めていけばいいのではないかと考えています。また、ポジティブ行動支援を学級経営に生かして、エビデンスのある指導を行っている先輩教諭の授業を見るなど、OJTを進めたいと思っています。

第1回審議会の時に、委員からは元気のない子どもたちが増えているという発言があったことが印象に残っています。学校においては多くの時間を学習の時間が占めているので、積み上げ教科での学び残しのある児童の元気がなくなって、それを担任の先生だけでフォローするのは難しい現実があるのではないかと感じました。特別支援学級でお手伝いしたり、特別支援学校教員がともに支援を考えたりするなど、センター的機能を強化していくことは重要で、地域に貢献できるよう専門性を高めて参りたいと考えております。

<佐古会長>

話の前半では、教員の働き方改革が必要であることと、それによって先生方のつながりやゆとりが生まれるとともに、教員の資質向上にもつながるのではということでした。指

標の中にもありますが、時間外在校等時間の縮減に関しては、教育委員会が特効薬を打てるようなものではなく、おそらく学校、先生方共々に進めていかなければならないテーマだと思っておりますので、学校からの情報発信がありましたらお願いしたいと思います。

また、特別支援教育の重要性については今後ますます大きくなると思っております。今後、特別支援学校の先生方の果たされる役割、特にセンター的機能の重要性が大きくなると思っておりますので、そのことを通して本県教育の充実につなげていただきたいと思います。

<土井委員>

激動の時代に本審議会の委員に選んでいただいたことに喜びを感じています。自分の役割として、学校現場の生の声を届けることを常に意識して発言してきました。コロナ禍や自然災害など、激動の時代の中で、将来教科書にも載るだろうと思われることが、ここ数年たくさん起きていて、教員は戸惑いますし、生徒たちももちろん戸惑います。その中で、答えのない問題に向き合っている教員の意見を少しでもお伝えできればということでここに来させていただいています。今日の会議が最後ということで、私が考えていることを三つに絞って申し上げます。

まず、先程から話題に上っていますが、この振興計画をどのように教育現場に周知するのかということについてです。私の実感としてはこの本を現場の教員が開くのは、春の職員会議の時だけです。その理由は、時間のゆとりがないからです。日々の多忙な業務の中では開けることはまずありません。ただ、春に、学校長が、本校はこれを重点的にやっていますとわかりやすく言ってくざると職員の統一見解が取りやすく、志気が高まるのではないかと感じています。また、それだけではもったいないと感じていますので、時期を設けて全体に目を行き渡らせる必要があります。学校の実情も、本校のように進学校と呼ばれるところもあれば、専門的なことを勉強しているところもありますし、生徒数がものすごく少ない学校や、地域との連携が密なところ、そうでないところなど、色々実情がありますので、それに応じて濃淡をつけて、どの目標に焦点を絞ってやっていくのかということに対して、もっと教職員が共通意識を持つことが非常に大事だと思います。

先ほど、森永委員がおっしゃっていたように、目標管理シートというのが教員にはありますので、その中に、振興計画の柱を入れるというのも良いのではないかと思います。そのような指示があれば振興計画を読むようになると思います。また、総合教育センターで実施している不祥事防止などのeラーニング研修がありますが、その中に入れることもできるでしょうし、中堅教員研修でもっとこれを活用すればいいのではと思います。初任研ももちろん大事なのですが、初任者には権限がなく、そうしたことを学べたとしても先輩教員に言える機会がないので、学校行事などを計画している中堅教員に本計画について研修をしてもらうことで教育現場への反映につながるのではないかと思います。

二つ目の柱についてですが、教育には不易と流行があります。振興計画には流行の面がフォーカスされて、新しく入っていると思います。ただ、生成AIにしても1人1台端末にしても、数年後は今と同じ状況にはないと思います。また、学校の統廃合も進んでいます。時代とともに変わっていくことをより慎重に見極めながら、次回の振興計画に生かせるように事態の成り行きを見守っていくことが大事だと思います。これを作って終わり

ではなくてそれに伴って、評価、アセスメントが非常に重要で、資料3にある項目を実施しながら、振興計画がうまく進んでいるかどうかをチェックする必要があると思います。

河口委員がおっしゃっていたように、学校現場では本当に時間がないので、アンケートでさえもすごく負担になっています。私は英語の教員で、グローバル関係のアンケートがたくさん来るのですが、課員の意見を集約しなければいけなかったりするのですごく複雑な作業でその業務に忙殺される状況があります。アンケートについても実施方法や集計方法などを工夫して、負担にならないようにしていただきたいと思います。また、アセスメントだけして終わりというのが一番しんどく感じています。「推進項目15」の「教員一人あたりの月平均時間外在校等時間」も毎日実施していますが、何時間かオーバーしていても何か現状が変わるわけではなく、ただ単に時間外労働をたくさんしているということ突きつけられるだけです。何か仕事が減るとかもっと簡略化されるとかいうことがあれば、アンケートも意味があると思いますが、今の段階ではそれが感じられず、負担になっているだけというのが率直な意見です。現場の教員はそう感じている人が多いのではないかと思います。アンケートを取るのであれば、アンケートを取るだけに終わらないようにしていただきたいと思います。

<榎教育長>

現場の率直な意見として拝聴しました。周知については、松本教育長からもお話がありました。教育長会や校長会等、その他いろいろな機会を通じてこれまでも周知を図ってきたところです。それでも現場の先生方一人一人からしたら、このような計画が何になるのかというお考えもあろうかと思えます。本計画はたくさん項目がありますので、総花的なものとして現場にお示しするのですが、校長のマネジメントというお話がありましたように、校長が、各校の実態に応じて注力する部分を示してお使いいただくのが一番効果があると思っています。

私が校長をしていたときには、項目は3つぐらいしか取り上げませんでした。優先順位1はこれ、2はこれ、余裕があったらこれもやってほしいといった具合に提示の仕方を工夫することが大事だと思います。研修につきましては、全て大事なのですが、自分の学校の中で最も優先的にすべきことを決めるのは校長ですので、それに基づいて研修をやっていけばいいのではと思っています。

また、オンライン研修や中堅教諭等資質向上研修等、研修に関する御意見もそのとおりだと思います。いろいろな研修で周知を図っていますが、中堅の先生から見た学校運営の参画の仕方や大きな学校での立ち位置等、それぞれの立場を踏まえ、学校に必要なものを提案できる先生に育てていただきたいと思えますので、そういう研修を進めていけるように研修担当に伝えておきます。それから、アンケートが負担であるとのお話が河口委員からありましたが、教育委員会としてはこれからもそうした点に配慮していかなければならないと思います。先ほど、事務局からもありましたが、成果指標も示した以上はどれくらい達成できているのかを先生方にお聞きする必要があります。今までのように数がたくさんあったら、回答だけで学校現場に負担がかかるということも重々承知しています。できるだけ精査して、必要なことだけを回答してもらいたいと思います。また、アンケートは負担になるだけで現状は変わらないのではないかという耳の痛い話ですが、

そこは厳しく自分自身を戒めながら受け止めなければならないと思います。教育委員会というのは施策を通じて子どもたちや先生方の教育環境を少しでも良くしていくものでなければならないと思っていますので、先生方や子どもたちの変わったという実感がなければきちんと浸透していかないと考えております。例えば、校則の見直しのように、形が変わって、自分たちが変わっているという実感を伴うことで、施策として仕上がっていくものだと思います。働き方改革につきましても、教員の時間外在校等時間については、45時間以上、80時間以上の教員がまだまだ多い状況です。特に80時間以上の過労死レベルの教員が一定数いることは、断じてまかりならないということで、そこはしっかり、時間数をまず減らす、その次に質を高めるということをやっていかなければならないと思っています。負担が増すだけで何も変わらないという御指摘につきましても、厳しく受け止めまして、先生方が少し変わったのではないかと考えてもらえるようなものを提案していきたいと考えております。ここを変えて欲しい、ここは変わっていないといったことに関して、学校とキャッチボールしながら、施策を展開してまいります。

<佐古会長>

教育長から非常に丁寧なお話がありました。アンケートによって教員の多忙化が増大するようなことがあっては本末転倒になりますので、その点は、今後教育委員会で精査していただき、負担のないようにしてもらいたいと思います。

<孝志委員>

公認会計士の監査の仕事では、重要性に基づいて監査をします。重要性にも量的な重要性和質的な重要性の二つがあります。量的というのは数値面から捉えられて分かりやすいのですが、数値で重要でなくても、重要と判断される場合にはしっかり監査しましょうということがあります。今回の成果指標についてですが、第3期までと同様に成果指標ごとの工程表を作成して、毎年点検・評価すると思うのですが、もちろん数値の面は大事なのですが、その時々によって注力する部分も変わってきます。今回、能登の震災があったので、振興計画を見直してみたら、防災教育のところに目がいって、そこには防災士の人数を増やしましょうという取組があります。もちろん量的拡大というのも大事なのですが、質的な部分で有事に役立つ防災教育というのもとても大事だということを感じました。数値だけでなく、質的な面も考慮しながら第4期の振興計画が始まりますが、その時々に合わせて改善をしていただけたらと思っています。最後になりますが、会計士という立場で、教育とは全く異なる立場からの参加だったのですが、私も参加できてよかったと思っています。実際に現場でおられる先生方の熱い思いをお聞きして、熱い思いが詰まった計画になったのではないかと思います。

<佐古会長>

変化の激しい時代ですので、これで徳島の教育を考えましょうという形で出発いたしますが、来年にはどのようなことが起こっているか分からないという時代でございますので、そうなりますと孝志委員の言葉で言いますと、質的な面も含めて柔軟に教育施策を組んでいただくことが必要かと思っております。

<近森委員>

成果指標については、第3期の143項目から、第4期は19項目にかなりスリム化されています。私もこの点に関してはすごくいいことだと思っています。たくさん指標があると先生方の負担も増えますし、達成しなければならぬことが増えますと、必然的に仕事量も多くなってしまいます。

私の個人的な理解としては、この成果指標はあくまで目標であって目的ではないと思っています。振興計画がどういう目的で作られているのかを分かってもらうものとしては、この成果指標を打ち出すことで理解されやすいものになるのではないかと考えています。数値が一人歩きするのは本末転倒ではありますが、数値化するというのは分かりやすさにつながりますので、数字の部分と数字では測れない部分とを合わせて打ち出していくことでよりわかりやすくなるのではないかと感じました。

最初の審議会の時に、学ぶことは楽しいことだということを申し上げました。楽しいということがモチベーションにつながるのではないかと思います。学ぶことのモチベーションの維持・向上と、教職員のモチベーションの維持・向上が非常に大事ではないかと考えています。今回の計画の中にもモチベーションを維持・向上させる項目がたくさん入っていますし、これをいかに実行していくかというのがすごく大事なのではないかと考えています。また、モチベーションを考える上で、その目的が非常に大事だと感じています。なぜ学ぶのかというときに、キャリア教育であったりとか、さらにはウェルビーイングという言葉も出てきていますが、そういうところにもつながっていく、自分らしく生きるために、自分がありたいように生きるために学ぶということもすごく重要であると思いますので、そういうものが詰まっている計画を、皆さんにお伝えできるように私自身も知り合いに広めていきたいと思っています。一県民としてこの計画の策定に携われたことを感謝しています。

<近藤委員>

委員の皆様の御発言をいろいろ聞かせていただいて、なるほどと思うようなことばかりです。私自身、教育現場のことをあまり知らない立場でどこまで言っているのかということも思いながら、意見を述べさせていただきたい。この計画について、どのように活用するのか、推進するのかということですが、大前提としては、県民総ぐるみで取り組んでいくものと認識しています。答申の冒頭の「計画の進行管理と見直し」や「計画の推進」にもありますように、市町村や学校だけでなく、家庭や地域を巻き込んでやるのが基本だろうと思っていますが、やはり、そうはいっても、それはなかなか一筋縄ではいかないとか、簡単にいくものではありませんので、まずは教育委員会から、学校からということで、今、各委員の皆さんからも意見があったところだと思います。先程から出ていますように、先生方にいかに取り組んでいただくかということを考えれば、校長のリーダーシップとマネジメントが何より重要になりますし、そこへ行く前に市町村教育長会や校長会等がいかに浸透を図っていくのかということだと思います。その意味ではやはり県教委の方々の采配といいますか、指導力といいますか、県民にいかにして浸透させていくのかという熱意が、県教委の方にも問われているのではないかと考えます。この度の答申には、

県のHPや広報誌など様々な媒体を活用して、情報発信・広報活動をするというように書かれています。それもそのとおりなのですが、なかなかそういうことだけでは広く浸透し、活発に活動されていくといことにはなりづらいと思いますので、やはりそれぞれの立場の方が熱意を持って取り組んでいくという覚悟が必要なのではないかと考えました。

<佐古会長>

周知・実行に至るまでのプロセスについて、御意見を頂戴しました。それから熱意ですね、紙に書いただけでなく、それを実行するという事について、教育委員会、学校の先生方に熱意を持っていただくということが重要であるということでした。

<中南委員>

今回、公募委員という形でこの会に学生という立場で参加させていただき、大変感謝しています。自分自身、たくさん学ぶことがあり、また、意見を言うために、周りの学生たちとたくさん話をして、周りの人たちも色々考えているのだと実感しました。この振興計画を見ていて、これを実践していくのは自分たちなのだとして強く実感しました。先ほど、初任研でこの計画を扱うのはどうなのかという御意見がありましたが、私にとってはこれが教科書みたいに思っていたので、やる気に満ちあふれている先生方に熟読していただいて、これからもっとこのようなことを勉強していかなければいけないということを実感してもらうためにも是非研修等で取り入れていただけるといいなと思っています。

<木内委員>

私も民間の立場からこの審議会に参加させていただき、非常に勉強になりました。20年ぶりに知事が交代したということで若干止まったところもあると思いますが、最終的には知事が掲げられている徳島新時代に向けた良い内容になっているかと思っています。毎回の審議会では、教育行政の方や委員の方の熱い思いを語っていただいているところで非常に参考になりました。会議で出た意見も振興計画の中にしっかり反映されていて、現状に沿った徳島ならではの非常に良い内容になっているかと思っています。皆さん言われているように非常に多くの項目がありますので、なかなか落とし込むのが大変だと思いますし、教育現場の負担も大変なものがあるかと思いますが、学校単位で役割を明確にしてこの計画を実行されるようお願いしたいと思います。

<松木委員>

徳島県内における教育の現状と取組について、よく理解できました。大学での教育実践におきましても当てはまる場所が多数ありまして、非常に参考になったという次第です。コロナ禍においてメンタルケアの重要性が非常にクローズアップされてきました。大学におきましても引きこもりや不登校への対策が非常に重要視されてきました。今回、様々な対策を施していただき、今後の対応に期待しているところでございます。ただ、それに対応する教員の意識向上といえますか、適切なときに適切な対応を取れるような研修の必要性を実感しています。あと、大学としてこの計画に協力できる事柄として、インターンシップ等、キャリア教育の充実に向けて是非支援させていただきたい。高大連携講座に

よる教育支援については、現在、阿南光高校といくつか行っていますが、そうしたことを積極的に推進していきたいと考えています。それからSDGsに関しては、とくしまGXスクールが非常に良い取組だと思いますので、そうした面でも貢献していきたいと思っています。その他、6次産業化ですとか、エシカル消費といった分野についても協力可能だと思いますので、今後、様々な協力可能な分野について、御支援、御協力をさせていただきたいと思っています。この振興計画は、非常に盛りだくさんの内容で、まとめるのは大変だったと思いますが、是非しっかりと進めていただければと思います。

<金西委員>

これを現場の先生方が実施するのは大変ということで、教育現場と教育委員会で、相乗効果を発揮するというのが重要であろうと認識しています。成果指標のことをずっと考えていたのですが、計画を評価するのは重要なことだと思いますが、評価を現場に落とし込んだときに現場は疲れていると思います。私の興味・関心がDXにありますので、「推進項目1」に関して、もう少しなんとかならないかなと考えていましたが、結局アンケートを取ることになってしまいます。全国学力学習状況調査から取ってきたものであれば、そんなに負担がかかりませんが、これとは別にアンケートを取ると、現場に負担をかけてしまいますので、結局どうやって負担をかけずにデータを吸い上げてくるかというのが非常に難しいと思っています。小学校、中学校はこれで取れるかもしれませんが、個人的には高校のデータもあった方がいいと思います。GIGAスクールの状況が徳島県は着実に進んでいて、よりよい効果を上げましたというデータを出したいという思いがあるわけですから、高校の現場でどれくらい使っているのかというデータを取りたいところです。しかし、そうすると現場の負担がかかるという話になります。せっかくこれだけのものをまとめてやろうとしていますので、着実な成果がありました、徳島県はこれだけのことをやりましたというのが見える方がいいと思います。負担にはなるのですが、高校のデータも取れたらいいのではと感じました。

<佐古会長>

成果指標のデータを取るとなると、学校の負担が増しますが、せっかくいい取組をしているのに成果として示すものが得られないとなると、痛し痒しという状況です。具体的に御提案がありましたが、「推進項目1」の成果指標は、小中学校の話ですが、高等学校においてもこのようなICT機器の活用についての指標を示すことはできますでしょうか。

<榎教育長>

小中学校の指標に関しては、全国学力学習状況調査の中の項目を引っ張ってくることで、現場の先生方に御負担をかけないような形でできると思います。高等学校については、土井先生からもアンケートで大変というお話がありましたが、ここは協力していただかざるを得ない項目だと考えております。ICTの活用は、これからの子どもたちに必須のものです。そのことを他県に先駆けて徳島県ではやってきております。その結果がどういう状況にあるのか、きちんと把握し、生徒たちや保護者に返していくというのは、今後、施策を展開していく上での必須の事項だと思っています。小中では、GIGAスクールの中で

それができるのですが、高校はGIGAスクールの枠の中に入っていないので、中学校で勉強したことが高校でどう生かされているかというのは、一つの指標として絶対必要で、その点はなんとか御協力いただけるよう校長会等で話をしてやらなければいけないと思っています。項目については、これから精査をしなければならないと思っていますが、何らかの評価は県教委としては求めていきたいと考えています。

<金西委員>

私も高校とやりとりをしているのですが、現場の皆さんがICTの分野で非常に努力されていることはよく知っています。せっかく頑張っているのに、そのことが表に出ないのが残念だという趣旨で先ほど御意見を申し上げました。今回のGIGAスクールのことなども、徳島県はむしろ先進的にやってきており、そのことの裏返しでしかないと思います。もちろん失敗もあっていいと、トライアンドエラーで、失敗のない成功はあり得ないので、いろんなことがあると思います。むしろ先進的に頑張ってきた高校の現場の皆さんの取組をくみ上げることができたらいいなというのがあって申し上げました。

<赤松委員>

今のICTの話ですが、タブレットを使えば簡単にアンケートできるのではないかと思いました。それと一点確認なのですが、前回の教育大綱ではSDGsのアイコンが表示されていたと思いますが、今回はそういったことはなされる予定なのでしょうか。

<事務局>

今回出ている案ではそういったことはないと思知しています。

<赤松委員>

持続可能な教育を目指していく中で、そのときだけというのではなく、今回も掲載できるのであればと思って申し上げました。

<青木副会長>

委員の皆さんの熱い意見が多いという印象を持ちました。私も医療福祉の世界に携わっていますので、現場の先生方、特に土井先生の意見に心打たれました。皆さんの意見をまとめますと、せっかく作った計画を現場の先生方、県民の皆さん、保護者、地域で生かしていただきたいという思いでなかろうかと思います。指標に関しましては、皆さん方の御意見をいただいていますので、それをしっかりと実行できるように事務局等で推進していただきたいと思っています。

それと、若山委員や河口委員もおっしゃっていましたが、可視化することはとても重要だと思っています。教育現場では、様々な研修をすると思いますが、通年を通して横にあればやはり意識すると思います。介護や医療の世界もそうです。ヒューマンエラーが起こらないように必ず可視化しています。それと同じような観点でいくと、一度深呼吸して立ち止まって考える、三つの目標のうち二つを重点的にやっているのだとなると現場の先生方も目標を目指してやっていこう、通年を通して、改革をしながら、それを推進していこ

うとなるのではないかと考えています。

私は他の審議会でも計画の策定に携わっていますが、計画を推進するに当たって、PDCAサイクルの重要性を常に言っております。計画の2ページ「計画の進行管理」の項目に入っています。計画の実行、評価、改善という、今の計画には必要であり、先生方のおっしゃった変化に合わせて改善していくといった観点、今、防災の話もしていただきました、防災教育というのはリズムがあって、大きな震災があるとやらないかんととなりますが、10年、20年とたってくると、しぼんでしまって他の事業に力を入れてしまう。持続的、継続的な計画進行をするためには、見直し改善は必要であると考えております。

最後にもう一点、教育長がおっしゃっていましたが、現場の先生方がこれだけやったから、変わるのだという実感が得られることが重要です。そうした実感がわくようなプラス思考に基づく取組を、現場の先生方であり、保護者であり、地域であり、県民総ぐるみで行うことに本計画の意義があると思います。今後、教育大綱と合わせてしっかりと取組を進めていっていただきたい。総合計画とリンクして、指標がスリム化されているという話もありましたが、私は総合計画の審議会の委員でもありますので、その観点とリンクしたやり方というのが今の新しい時代のやり方だと考えております。項目が多ければ多いほどやらなければいけないことが多くなり、現場の先生方の負担も大きくなると思いますので、スリム化をしながらそこから紐付けていくといった指標の在り方というのは、今の時代に合わせたやり方だろうと考えております。

<佐古会長>

PDCAのサイクルをしっかりと回して、新しい時代に対応するような教育施策を展開してほしいということでした。今回も各委員がおっしゃっていましたが、非常に熱心に徳島県の教育に対するお考えを述べていただき、ありがとうございました。今回、榊教育長からも丁寧な説明がありましたように、委員の皆様のお考え、お気持ちは教育委員会とも共有できたのではないかと思います。今後、この計画の推進に役立てていただけるのではないかと思います。